

木更津工業高等専門学校	開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	微分積分ⅠA
科目基礎情報				
科目番号	g0400	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	2	
開設期	前期	週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 高遠ほか著『新微分積分Ⅰ 改訂版』大日本図書、2021年、1700円(+税) 補助教材: 高遠ほか著『新微分積分Ⅰ 問題集 改訂版』大日本図書、2021年、900円(+税)			
担当教員	佐野 照和			
到達目標				
関数の極限を理解し、それをもとに微分の概念を理解し、さまざまな関数の微分の計算ができるることを第1の目標とする。次に、さまざまな関数のグラフの概形を微分の考え方元に描くことができ、力学への応用として、速度と加速度の関係を理解する。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	関数の極限・連続性に関する応用的な問題を解くことができる。	関数の極限・連続性に関する基本的な問題を解くことができる。	関数の極限・連続性に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目2	関数の微分係数と導関数に関する応用的な問題を解くことができる。	関数の微分係数と導関数に関する基本的な問題を解くことができる。	関数の微分係数と導関数に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目3	グラフの概形、媒介変数表示、不定形の極限と言った微分の応用的な問題を解くことができる。	グラフの概形、媒介変数表示、不定形の極限と言った微分の基本的な問題を解くことができる。	グラフの概形、媒介変数表示、不定形の極限と言った微分の基本的な問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係				
準学士課程 2(1)				
教育方法等				
概要	前半は、関数の極限・連続性、関数の微分係数と導関数と言った基本的な概念および公式を学ぶ。後半は、グラフの概形、媒介変数表示、不定形の極限と言った微分の応用を学ぶ。			
授業の進め方・方法	板書・スライド・配布資料による講義形式で極力丁寧に説明を行うが、分からなければその場で質問すること。また、適宜問題演習の時間をとる。なるべく自分の力で問題を解く習慣を身につけること。			
注意点	微分積分ⅠAは他の数学分野と密接に関係しあっていて、段階的に積み上げられた関数概念をより明らかにし、関数についてのまとまった理解をはかるよう組み立てられている。これらの理解を確実にするためには、授業だけでは不十分で、自分で問題を解くということをしなければ十分な成果は期待できない。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、関数の諸性質	
		2週	関数の極限	
		3週	微分係数と導関数	
		4週	微分係数と導関数	
		5週	いろいろな関数の導関数	
		6週	いろいろな関数の導関数	
		7週	関数の連続性	
		8週	中間試験	
2ndQ		9週	試験返却・解答、関数の変動	
		10週	関数の変動	
		11週	関数の変動	
		12週	関数の変動	
		13週	微分法の様々な応用	
		14週	微分法の様々な応用	
		15週	定期試験	
		16週	試験返却・解答	
評価割合				
	試験	発表	相互評価	態度
総合評価割合	50	0	0	0
基礎的能力	50	0	0	0
	ポートフォリオ	その他	合計	

専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0